

# 浜松医科大学における解剖学実習に供されるご遺体の不足と献体登録への働きかけについて

佐々木 健<sup>1,2</sup>、相羽 民人<sup>2,3</sup>、佐藤 智仁<sup>2</sup>、瀬藤 光利<sup>2</sup>、佐藤 康二<sup>1</sup>  
(浜松医科大学<sup>1</sup> 器官組織解剖学、<sup>2</sup>細胞分子解剖学、<sup>3</sup>技術部)

SASAKI Takeshi, AIBA Tamito, SATO Tomohito, SETOU Mitsutoshi, SATO Kohji:

Decrease in Cadaver Donors for Human Dissection Training and Its Solutions in Hamamatsu University School of Medicine.

In recent years, the number of cadaver donors for human dissection training at Hamamatsu University School of Medicine has decreased, and there is a risk that the training will be disturbed. Therefore, we have attempted to solicit body donations for the training through public media, in addition, we have planned to reduce the number of cadavers used for the training. As a result, these solutions were effective, and thus we reported them here.

## 1. 目的

浜松医科大学では学生解剖実習に加え、臨床医を対象とした(Cadaver surgical training : CST)を行っており、これらの実習に用いる献体は年間 40 体超である。一方、近年は献体登録者数の減少が見られ、1 年間の献体引き取り数が実習の必要数を下回ることが多くなった。この事実は将来的な実習でのご遺体不足を意味し、医学教育の根幹を揺るがしかねない危機的な状況でもある。このような現状を踏まえ、本学では献体登録者数の増加を喫緊の課題とし、地域のメディアや自治体を巻き込んだ取り組みを行ったのでそれを紹介する。

## 2. 取組み

上述の CST 開始以降のご遺体必要数は、学生解剖実習(2 年生対象)が約 30 体/年、臨床解剖実習(6 年生対象)が約 2 体/年、CST(臨床医対象)が 10 体/年であり、年間 40 体超のご遺体が必要になる(表 1)。一方、2020~22 年度の 3 年間の献体引き取り数の平均は 33 体であり(図 2)、必要数に対して、マイナス 7 体超という計算になる。また、2024 年 2 月 1 日現在のご遺体の保管数は 55 体であり、このままいくと、約 8 年で保管分も無くなり、完全に実習時のご遺体不足に陥る。このため、本学では以下の二つを柱とした取り組みを行った。

1. 献体登録者数の増加に対する取り組み
2. 実習に使用のご遺体数の抑制

### 1-1. 献体者減少に関する新聞社の取材と記事掲載

地元の静岡新聞社の協力で、取材記事として「献体

不足の問題」や「献体の意義」を取り上げてもらい、2023 年 10 月 1 日の朝刊に掲載された。また、2024 年 2 月 15 日現在、静岡新聞 HP においても記事の同様の確認ができる！。

表 1. ご遺体使用数の推移(2023 年度は 2 月 1 日現在)


年度	2020	2021	2022	2023
使用数	50	44	42	35

表 2. 献体数の推移(2023 年度は 2 月 1 日現在)

年度	2020	2021	2022	2023
使用数	37	27	35	28


### 1-2. 献体のお知らせを自治体広報等に掲載

大学の総務課から静岡県内各自治体に献体募集のお知らせの掲載を依頼した。現在までに自治体の広報や市役所だより等に湖西市、御殿場市(図 1)、函南町の 3 市町が掲載済み、下田市、裾野市、伊豆市の 3 市は 2024 年 3 月に掲載予定となっている。

 **医学の発展のため、献体にご協力ください**

献体とは、死後に自身のご遺体を医学生への解剖学実習のために、大学に無償で提供いただくことです。解剖学実習は「科学的探究心と専門知識に基づく問題解決能力を持つ医師」を育てるための大切な学問です。実習には多くの献体が必要としており、それに伴う皆様のご理解とご協力が必要です。詳細は、問合せ先までご連絡ください。

**条 件** ①静岡県在住であること  
②55 歳以上であること  
③本人の意思であること  
④親族の同意があること などの条件があります。

▼詳しくはこちら 

問合せ先 浜松医科大学白菊会事務局 (浜松医科大学総務課総務係内)  
TEL 053-435-2120 E-mail sss@hama-med.ac.jp

図 1. 御殿場市の市役所だよりに掲載されたお知らせ

### 1-3. 献体に関する学内 HP の改善

以前より、浜松医科大学の HP 内においては、献体を募集する白菊会のページが比較的に見つけにくいとこ

ろにあった。また、一般的に、当該大学に関心がない人、特に高齢者においては、深い階層までページを探すようなことはしないと思われる。このようなことから、白菊会のページを見つけやすい場所に置いてアクセスしやすいように工夫した。具体的には、トップページの大学紹介にアクセスすると、「浜松医科大学へのご献体について」、「浜松医科大学白菊会」というページにアクセスできるようにした。

#### 2-1. 実習でのご遺体使用数の抑制(5人で1体へ)

2023年度まではご遺体1体を学生4人(1班)で使用してきた。これを2024年度から当面の間、ご遺体1体を学生5人(1班)で使用することとした。学生が120人場合、4人で1体では30体のご遺体が必要になるが、これを5人で1体とすることにより、使用数を6体分減らすことが可能である。

### 3. 結果

#### 1-1. 献体者減少に関する新聞社の取材と記事掲載

浜松医科大学の献体に関する記事が静岡新聞に掲載された翌々日(10月3日)の午前中までに、大学への献体に関する問い合わせ(献体登録の希望)は25件にも上った。また10月6日までの1週間で計45件の問い合わせがあった。この数字は、2020-22年の1年あたりの登録者数の100%以上に相当した。さらに、2023年の献体登録者数は123人で、直近3年間の3~4倍に上昇した(表3)。このため、本新聞記事の効果はかなり大きいものであったと考えられる。

#### 1-2. 献体のお知らせを自治体広報等に掲載

上の取り組みのところでも述べたが、2024年2月の時点で、既に湖西市、御殿場市、函南町で献体募集のお知らせがそれらの広報等に掲載されている。ただしこれらの掲載からそれほど時間が経っていないこと、また県内でも限定されていることなどから、この効果がどれほどであるかは、現時点ではわからない。

#### 1-3. 献体に関する学内HPの改善

白菊会の献体募集のページを、数年前に本学のHP内の比較的に見つけやすいところに移動させた。その効果は不明であるが、2021年と2022年の献体登録者数は、それぞれ32人、44人と増加傾向にあった(表3)。

表3. 献体登録者数の推移(1~12月の年別表示)

年	2020	2021	2022	2023
登録数	28	32	44	123

#### 2-1. 実習でのご遺体使用数の抑制(5人で1体へ)

ご遺体の供給に相当する献体登録者数を増やすだけ

でなく、需要となるご遺体使用数の抑制にも取り組むこととなった。具体的には、2024年度からの実習を4人で1体から5人で1体にし、ご遺体の使用数を抑制する計画である。この計画で年間6体前後の抑制になるため効果は大きい。一方で、献体数が回復した時は、従前の4人で1体の実習に戻す予定である。

### 4. 考察

解剖学教育は医学や生物学の根幹をなす学問であり、その中で解剖実習は、特に医学の分野では医師養成の必須の実習である。このような実習に滞りが生じることは、医師の養成に大きな支障が出ることを意味し、日本の医療、ひいては国民の健康にも大きな影響を落としかねない。このようなことから、解剖実習におけるご遺体不足は深刻な問題であるといえる。同様のご遺体不測の問題は、全国の大学で起こる可能性があり、今回我々が行った取り組みは、そういった事態に陥った大学に対して参考になると思われる。

新聞記事や自治体の広報等を献体募集の媒体として利用することは、その読者の広さから非常に効果的と思われる。しかしながら、読者の目に触れる期間が限定的なため、その効果も一過性であると考えられる。そのため、こういった媒体を利用した募集の告知は、継続的に行うこと必要であろう。一方、お知らせ等を広報に載せることが有料である自治体(浜松市)も存在し、今回は有料の自治体広報への掲載は見送った。

学生実習を1班(ご遺体1体)5人制は2024年度から行う予定である。しかしながら、5人制にすることにより、ご遺体という貴重な教材に触れる1人当たりの時間が短くなり、教育の質が低下する恐れがある。このようなことを考慮すれば、ご遺体の不足が解消し次第、1班4人制に戻すべきと考えている。

### 謝辞

本取り組みを遂行するにあたり、浜松医科大学白菊会の窓口となり多大なご協力を戴きました、浜松医科大学総務課の皆様へ深く感謝いたします。

### 参考文献

- 1) 「献体」減る登録者 医学生への学びに影 静岡県内、コロナで市民関心低下? 2023年10月1日付、静岡新聞朝刊

<https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1327703.html>